

一人の従順によって

ローマの信徒への手紙 5 : 15 - 19



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023年6月25日

聖霊降臨後第4主日

東舞鶴聖パウロ教会にて

今日はパウロの言葉を聞きましょう。先ほど読まれた使徒書の最後、ローマの信徒への手紙第5章19節の言葉です。

「一人の人の不従順によって多くの人が^{つみびと}罪人とされたように、一人の従順によって多くの人が正しい者とされるのです。」

「一人の人の不従順」。この「一人の人」とは、アダムです。アダムは最初に神によって造られた人です。その鼻に、神の命の息を吹き込まれて生きる者となった。エデンの園に住んでそこを守る者となった。もう一人の人、エバを神さまから与えられ、仲良く幸せに暮らしていました。

しかし「一人の人の不従順」。アダムは神に背きました。神に従順ではなかった。これだけは取って食べてはいけないと禁じられていた善悪の知識の木から取って食べた。ここから人間の不幸が始まりました。

アダムに起こった不幸とは何でしょうか。第一の不幸は、神を避けるようになった、ということです。

「その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、主なる神はアダムを呼ばれた。

『どこにいるのか。』』創世記3:8-9

自分の命の源は神にあるのに、神なしに生きることはできないのに、神を避けて身を隠す。負い目を感じるからです。神と

の関係の破れ。これが第1の不幸です。

そしてアダムの第二の不幸は、自分で責任を引き受けず、責任を人にかぶせたことです。「取って食べるなど命じた木から食べたのか」と神から問われたとき、アダムはこう答えました。

「あなたがわたしと一緒にいるようにしてくださったあの女が、木から取って与えたので、食べました。」創世記 3:12

あの女のせいだ。あの女が悪い。あの女をわたしと一緒にしてくれた神さまにも責任がある、というような言い方です。責任回避。責任転嫁。人を非難して自分を守ろうとする。神と人との関係が破れるとともに、人と人との関係も破れました。

実はこの物語を書いた創世記の著者は、これをただ昔の先祖の話として書いたのではなく、自分たちの現実だと感じながら書いたのです。神との関係が破れ、人と人との関係も破れている。悲しい現実、人類の陥った不幸です。

そしてパウロもまた、自分の負い目と罪に苦しみました。彼はかつて、主の弟子ステパノが石で打ち殺されたとき、それに荷担しました。後に彼がキリストに出会ったとき、自分が罪のない人を死に至らせたことにひどく苦しみました。

神との関係の破れ。人と人と関係の破れ。罪と負い目。これはアダムだけではない、自分のことだ、またすべての人類の現

実だと、パウロは痛切に感じたのです。この不幸の行き着くところは死と滅びだ、と。

「一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされた」

アダムの不従順は多くの人に及ぶ。わたしたちは皆、アダムと同じく神に対して不従順であり、罪人である。人類の代表はあのアダムだ。アダムのあの姿は、多くの人、すべての人類の現実になってしまっている。言わばアダムの縄目、アダムの巨大な影響力の中にわたしたちは皆、閉じ込められてしまっていて、身動きできない。救いがない。これがパウロの認識であり嘆きです。

しかしそれが結論ではありません。パウロが言いたいのはその次です。

「一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、一人の従順によって多くの人が正しい者とされる。」

この後半をパウロは言いたいのです。救いはあるのだと。

人が皆、神への不従順、不真実を重ねる痛ましいこの現実の中で、ただ一人イエス・キリストが神への従順を貫いて生き、従順を貫いて死なれた。「一人の従順」。この方一人が、多くの人への投げ出した責任と罪を引き受けられた。わたしたちの不従順、わたしたちの不真実の無限の積み重なりをご自分が代わって引き受けて生き、それを引き受けて死なれた。わたしたちが

滅びないために、自分の身を挺してわたしたちを守ってくださった。

「一人の従順によって多くの人が正しい者とされる。」

ただ一人イエス・キリストのゆえに、わたしたちは罪人でありながら、不従順でありながら、正しい者とされる。神は、わたしたちをキリストのゆえに正しい者とし、愛する子として受け入れてくださる。これによって魂は休らうことができます。

むつかしい理屈のように聞こえたかもしれませんが。しかし実はわたしは、この箇所、この言葉で生きながらえることができたのです。

40年近く前、わたしは日本聖公会の日韓協働委員の役を引き受けたことで心に深い負い目を抱えていました。日韓協働委員会ができる前の年（1984）、第1回日韓聖公会宣教セミナーというのが開かれたのですが、わたしたちはこれに疑問を抱いて反対運動をしていたのです（日韓の政治の歪んだ関係を棚上げしている、在日への差別を素通りしている、というのがその主な理由でした）。ところが、求められて日韓協働委員になったため、わたしは2回目の日韓宣教セミナーを準備・実行する側になってしまいました。責められたわけではありません。しかしわたしは、一緒に前回反対運動をした仲間たちを裏切ったという思いをどうすることもできませんでした。

そのことが心にのしかかってくると、食事も喉を通らなくなる。自分の存在そのものが危うくて、生きて行けないように感じる。そういう状態を抱えながら、どこに救いがあるのかを呻き求めて、聖書を読んでいました。そしてこのローマ書第 5 章の言葉に出会ったのです。

「一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、一人の従順によって多くの人が正しい者とされる。」

ただ一人、イエス・キリストの従順によって多くの人が正しい者とされる。わたしは正しくなくてよい。イエス・キリストがおられるから、この方がただ一人神への従順を貫かれたから、わたしはよしとされる。わたしの救いはこの方が確保してくださる。わたしは生きることを許されている。生きていてよい。この言葉のゆえに、わたしは死なずにすんだのです。

先ほどの言葉で言えば、わたしはアダムの縄目から断ち切られて、キリストのうちに自分が確保されていることを知ったのです。

パウロの趣旨はこうです。イエス・キリストが、アダムに縛られているわたしたちを引きはがし、解き放って、わたしたちをキリストのもとに集めてしっかりと保ってください。人類の代表はアダムではない。キリストが全人類の代表になってくださった。わたしたちはキリストのもとに集められている。

「一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、
一人の従順によって多くの人が正しい者とされる。」

ただ一人従順を貫かれたイエス・キリストのゆえに、わたしたちは生きることを許され、肯定され、生きることを可能にされたのです。

このイエス・キリストに触れたとき、わたしたちは責任を引き受けてまっすぐに生きて行くことを学びます。どうしても自分を知ってもがきつつも、もはや古い自分の中に居直ることをやめて、イエスの招きに答えて歩もうとするのです。

現実には多くの不安、心配、葛藤があります。世の中には悪の大きな力が働いています。しかし今日の福音書でイエスさまは「恐れるな」と言われました。

「あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。だから、恐れるな。」 マタイ 10:30-31

天には、わたしたちの髪の毛までも1本残らず知っていてくださる父がおられます。わたしたちの傍らには、わたしたちのために、わたしたちに代わって従順を貫き、わたしたちに救いを用意してくださったイエス・キリストがおられます。

「だから、恐れるな。」

祈ります。

神さま、不従順なわたしたちを救うために、ただ一人あなたへの従順を貫かれたイエス・キリストを仰がせてください。わたしたちのために生きて死んで復活してくださった救い主の愛を教えてください。アーメン